

平成4年中の地域別国際収支について

1. はじめに

(1) 地域別の国際収支統計

わが国の地域別の国際収支統計は、暦年ベース（確報）で上期と年中の計数について公表されており、平成4年中の地域別国際収支は、5年7月2日に平成5年5月分の国際収支（速報）とともに発表された。

なお、地域別の国際収支統計で発表している計数は、経常収支と長期資本収支等であり、短期資本収支と金融勘定等については、もとより地域別のデータがないことから、作成されていない。

(2) 4年中のわが国の国際収支の動向

まず、4年中のわが国の国際収支の動向について述べると、経常収支の黒字は1,175億51百万ドルとなり、前年の729億01百万ドルに比べて、446億50百万ドル、61.2%黒字幅を拡大して過去最高となった（これまでの最高額は昭和62年の870億15百万ドル）。

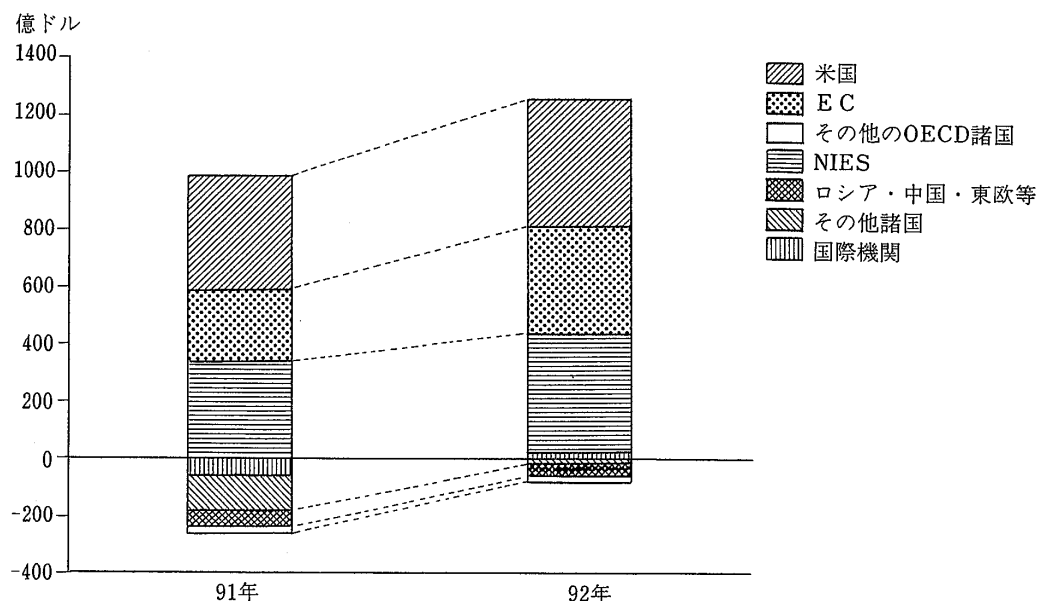
同じく、貿易収支の黒字も、前年比293億04百万ドル、28.4%黒字幅を拡大して1,323億48百万ドルと過去最高となった（これまでの最高額は3年中の1,030億44百万ドル）。貿易黒字の拡大は、円高等による輸出価格の上昇や輸入価格の低下といった価格要因に加えて、内外の経済動向による影響を受けたものである。

貿易外収支は、旅行収支の赤字幅が拡大したものの、投資収益収支の黒字幅が大きく拡大したため、101億12百万ドルの赤字と前年（176億60百万ドル）に比べて75億48百万ドル、42.7%赤字幅が縮小している。

また、移転収支は、前年の湾岸平和基金への拠出金があった特殊要因の剥落で3年中の124億83百万ドルの赤字から46億85百万ドルの赤字へと赤字幅が大幅に縮小した。

以上の経常収支を、地域別にみると、対米国が前年比44億35百万ドル増の444億60百万ドル、対ECが同121億99百万ドル増の374億21百万ドル、対アジアNIESが同79億22百万ドル増の416億43百万ドルと、いずれも黒字幅が拡大しているほか、旧共産圏諸国にあたる対ロシア・中国・東欧等が前年比赤字幅が9億96百万ドル減の48億30百万ドルの赤字、中近東を含むその他諸国が78億63百万ドル減少の37億45百万ドルの赤字となり、多くの国又は地域に対して黒字幅の拡大若しくは赤字幅の縮小となっている。

第1図 わが国の地域別経常収支



第1表 わが国の地域別経常収支の推移

(単位：百万ドル，%)

		昭和61年 (86年)	62年 (87年)	63年 (88年)	平成元年 (89年)	2年 (90年)	3年 (91年)	4年 (92年)	増減額	前年比
全世界計	経常収支	85,845	87,015	79,631	57,157	35,761	72,901	117,551	44,650	61.2
	貿易収支	92,827	96,386	95,012	76,917	63,528	103,044	132,348	29,304	28.4
	貿易外収支	△ 4,932	△ 5,702	△ 11,263	△ 15,526	△ 22,292	△ 17,660	△ 10,112	7,548	42.7
米 国	経常収支	53,782	56,678	51,320	47,483	37,653	40,025	44,460	4,435	11.1
	貿易収支	54,919	57,117	52,448	49,404	41,869	43,442	50,249	6,807	15.7
	貿易外収支	△ 585	1,021	115	△ 1,198	△ 3,387	△ 2,662	△ 4,763	△ 2,101	△ 78.9
カ ナ ダ	経常収支		1,655	563	452	550	2,187	2,049	△ 138	△ 6.3
	貿易収支		653	△ 724	△ 950	△ 863	331	△ 32	△ 363	赤転
	貿易外収支		1,035	1,365	1,482	1,478	1,883	2,123	240	12.7
E C	経常収支	14,828	17,712	19,756	9,875	6,163	25,222	37,421	12,199	48.4
	貿易収支	18,023	21,338	24,604	18,800	16,346	33,371	39,415	6,044	18.1
	貿易外収支	△ 3,168	△ 3,502	△ 4,828	△ 8,883	△ 10,055	△ 8,020	△ 1,872	6,148	76.7
仏	経常収支		425	75	△ 1,969	△ 3,818	△ 2,894	△ 338	2,556	88.3
	貿易収支		1,431	1,165	231	△ 752	840	1,635	795	94.6
	貿易外収支		△ 993	△ 1,035	△ 2,146	△ 3,013	△ 3,701	△ 1,925	1,776	48.0
独	経常収支		6,580	8,119	7,092	6,577	10,468	9,995	△ 473	△ 4.5
	貿易収支		7,094	8,309	7,546	7,040	10,579	10,262	△ 317	△ 3.0
	貿易外収支		△ 503	△ 194	△ 438	△ 461	△ 97	△ 272	△ 175	△ 180.4
伊	経常収支		47	△ 330	△ 1,343	△ 1,866	△ 808	△ 364	444	55.0
	貿易収支		156	142	△ 764	△ 1,288	△ 413	39	452	黒転
	貿易外収支		△ 68	△ 463	△ 572	△ 571	△ 382	△ 397	△ 15	△ 3.9
英	経常収支	1,481	1,996	1,357	△ 3,954	△ 6,483	1,853	7,647	5,794	312.7
	貿易収支	3,752	2,475	6,526	3,696	1,167	9,674	13,489	3,815	39.4
	貿易外収支	△ 2,268	△ 3,436	△ 5,211	△ 7,697	△ 7,604	△ 7,809	△ 5,748	2,061	26.4
東南アジア	経常収支		14,330	16,990	13,533	19,371	33,772	43,599	9,827	29.1
	貿易収支		17,427	22,936	22,647	30,144	43,418	49,965	6,547	15.1
	貿易外収支		△ 2,383	△ 5,420	△ 7,967	△ 10,111	△ 8,913	△ 5,571	3,342	37.5
アジア NIES	経常収支		18,006	20,218	17,151	20,831	33,721	41,643	7,922	23.5
	貿易収支		22,076	26,509	26,158	31,355	43,915	48,416	4,501	10.2
	貿易外収支		△ 4,028	△ 6,428	△ 8,731	△ 10,618	△ 10,332	△ 6,958	3,374	32.7
ロ シ ア・ 中 国・ 東 欧 等	経常収支	7,399	3,066	1,732	△ 1,110	△ 5,870	△ 5,826	△ 4,830	996	17.1
	貿易収支	6,895	2,696	1,356	△ 1,664	△ 5,944	△ 5,655	△ 4,413	1,242	22.0
	貿易外収支	541	483	452	719	201	△ 59	△ 72	△ 13	△ 22.0
中 国	経常収支		1,363	367	△ 1,641	△ 5,146	△ 4,959	△ 4,023	936	18.9
	貿易収支		1,534	425	△ 1,754	△ 5,093	△ 4,500	△ 3,435	1,065	23.7
	貿易外収支		△ 99	△ 35	186	10	△ 405	△ 439	△ 34	△ 8.4

(注) 1. EC諸国：ベルギー、デンマーク、フランス、ドイツ連邦、ギリシア、アイルランド、イタリア、ルクセンブルク、オランダ、ポルトガル、スペイン、イギリス。

2. 東南アジア：アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、ブルネイ、東チモール、*香港、インド、インドネシア、*韓国、マカオ、マレーシア、モルジブ、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、

*シンガポール、スリランカ、*台湾、タイ（*は、NIEs）。

3. ロシア、中国、東欧等：アルバニア、ブルガリア、カンボジア、中華人民共和国、チェコスロバキア、ハンガリー、北朝鮮、ロシアを含む旧ソ連諸国、ラオス、モンゴル、ポーランド、ルーマニア、ベトナム。

次に、4年中の長期資本収支（ネット）は、前年の370億57百万ドルの黒字（流入超）から284億59百万ドルの赤字（流出超）へ転化した。前年は、わが国の株式市況の値頃感から外国人投資家による本邦株式投資が活発化したことを主因に11年ぶりに収支尻で黒字に転じたが、4年中は対日株式投資が縮小したことなどから、再び赤字に転じたものである。

さらに、長期資本収支を地域別にみると、対米国では流出超幅が88億34百万ドル拡大したほか、対ECでは流入超から流入超へと転化、対アジアNIESでは流入超幅を311億96百万ドル縮小などとなっている。

以下、経常収支と長期資本収支について、米国、EC、アジアNIESの順で概略を説明してみたい。

第2表 わが国の地域別長期資本収支の推移

(単位：百万ドル)

		昭和61年 (86年)	62年 (87年)	63年 (88年)	平成元年 (89年)	2年 (90年)	3年 (91年)	4年 (92年)	増減額
全世界計	長期資本収支	△ 131,461	△ 136,532	△ 130,930	△ 89,246	△ 43,586	37,057	△ 28,459	△ 65,516
	本邦資本	△ 132,095	△ 132,830	△ 149,883	△ 192,118	△ 120,766	△ 121,446	△ 57,962	63,484
	外国資本	634	△ 3,702	18,953	102,872	77,180	158,503	29,503	△ 129,000
米 国	長期資本収支	△ 65,650	△ 61,030	△ 59,260	△ 53,861	△ 11,719	△ 18,358	△ 27,192	△ 8,834
	本邦資本	△ 59,186	△ 50,563	△ 61,490	△ 57,145	△ 16,437	△ 35,044	△ 22,842	12,202
	外国資本	△ 6,464	△ 10,467	2,230	3,284	4,718	16,686	△ 4,350	△ 21,036
E C	長期資本収支	△ 34,386	△ 34,327	△ 34,114	13,236	△ 22,218	39,207	△ 6,703	△ 45,910
	本邦資本	△ 46,117	△ 50,078	△ 55,524	△ 85,476	△ 57,962	△ 49,525	△ 26,259	23,266
	外国資本	11,731	15,751	21,410	98,712	35,744	88,732	19,556	△ 69,176
東南アジア	長期資本収支		△ 11,343	△ 11,471	△ 1,654	23,748	39,609	12,120	△ 27,489
	本邦資本		△ 4,909	△ 5,595	△ 9,081	△ 9,195	△ 8,391	△ 3,150	5,241
	外国資本		△ 6,434	△ 5,876	7,427	32,943	48,000	15,270	△ 32,730
アジア NIES	長期資本収支		△ 9,352	△ 7,997	2,520	27,724	44,714	13,518	△ 31,196
	本邦資本		△ 1,716	△ 2,815	△ 4,417	△ 5,145	△ 2,668	1,156	3,824
	外国資本		△ 7,636	△ 5,182	6,937	32,869	47,382	12,362	△ 35,020
ロシア・ 中国・ 東欧等	長期資本収支		55	△ 2,491	△ 4,028	△ 1,857	△ 1,732	△ 1,721	11
	本邦資本		△ 851	△ 2,738	△ 4,230	△ 2,504	△ 1,747	△ 2,982	△ 1,235
	外国資本		906	247	202	647	15	1,261	1,246
中 国	長期資本収支		△ 143	△ 1,938	△ 2,454	△ 1,196	△ 790	61	851
	本邦資本		△ 1,049	△ 2,541	△ 2,663	△ 1,843	△ 807	△ 1,217	△ 410
	外国資本		906	603	209	647	17	1,278	1,261

2. 対米国の国際収支について

(1) 経常収支

平成4年中の米国に対する経常収支は、444億60百万ドルの黒字で、対前年比44億35百万ドル、11.1%黒字幅が拡大した。これは、貿易収支の黒字幅が68億07百万ドル拡大したことによるものであり、他方、貿易外収支の赤字幅は21億01百万ドル拡大している。

米国に対する経常収支の黒字は、昭和62年(1987年)の566億78百万ドルの黒字をピークに年々減少していたが、平成3年以降は増加に転じている。ただし、4年中の444億60百万ドルの黒字は、ピーク時(62年)の黒字幅の78%程度に止まっている。

貿易収支

4年中の対米国貿易収支の黒字は、前年比68億07百万ドル、15.7%増の502億49百万ドルとなったが、これは輸出が前年比5.3%増の952億42百万ドルと伸びたのに対して、輸入が前年比4.4%減の449億93百万ドルに止まったためである。

対米国輸出入を貿易統計(通関ベース)を使って品目別にみると、輸出では、自動車、映像機器(テレビカメラ、VTR等)などが減少したものの、自動データ処理機(主にパソコン)、半導体等電子部品(IC等)、自動車の部分品や原動機(主に自動車用エンジン)などの増加により、前年比4.6%増となった。また、輸入では、肉類、小麦等の食料品などが増加したものの、鉄鋼・アルミ等の金属製品、綿花、半導体等電子部品などの減少により、同2.0%減と

なった。

貿易外・移転収支

4年中の貿易外収支は、対世界では赤字が縮小しているが、米国に対しては47億63百万ドルの赤字と前年に比較して21億01百万ドル赤字幅が拡大した。これは、運輸収支や旅行収支の赤字が縮小したものの、投資収益収支の黒字が縮小したことやその他収支の赤字が拡大したことによるものである。

投資収益の黒字幅の縮小（前年の173億ドル→145億ドルの黒字で28億ドルの黒字縮小）は、対米証券投資の減少により証券利子の受取の減少等によるものである。また、その他収支の赤字拡大は、米国に対する特許権使用料の支払が増加したこと等により民間部門の赤字幅が縮小したためである。

移転収支は、民間部門における米国に対する和解金の支払増などから、前年の7億55百万ドルから赤字幅が拡大し、10億26百万ドルの赤字となった。

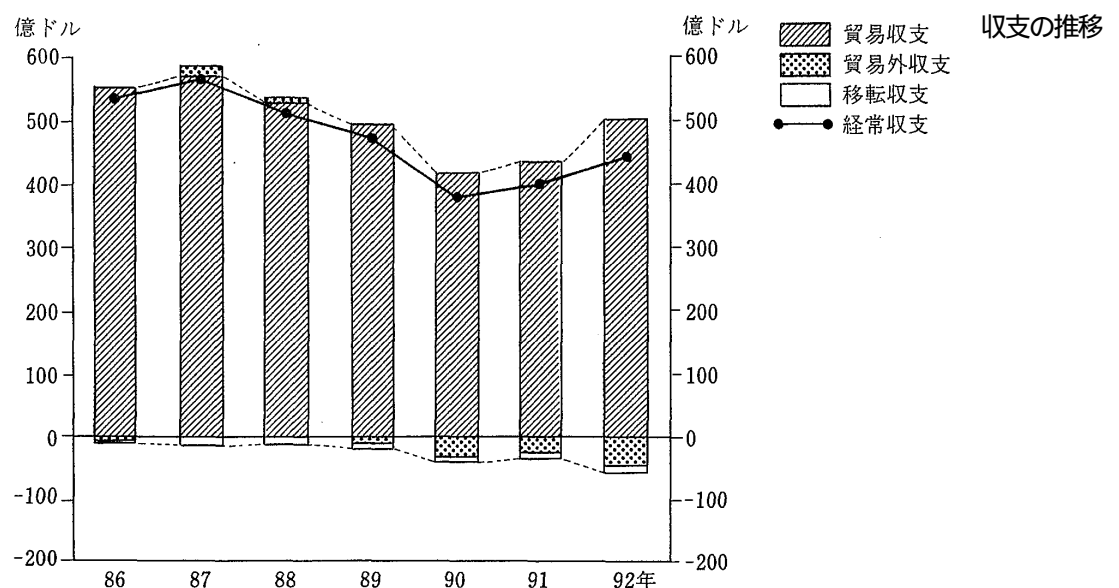
（2） 長期資本収支

わが国と米国との長期資本収支（ネット）は、昭和55年（80年）以降日本側の赤字が続いている。4年中の長期資本収支も、前年の183億58百万ドルの流出超から271億92百万ドルの流出超へと流出超幅を拡大している。

これを資本・負債に分けてみると、本邦資本（資産）では、対米直接投資の縮小、対外証券投資が、米国株式投資の処分超（売越し）への転化等から流出超幅が拡大したため、流出超を前年に比べて122億02百万ドル縮小して228億42百万ドルの流出超となった。

一方、米国資本（負債）では、わが国の株価が低迷する中对日株式投資が減少したこと等により、証券投資全体で流出超に転化したこと等から、前年の166億86百万ドルの流入超から43億50百万ドルの流出超へ転化した。

第2図 対米国の経常



3. 対ECの国際収支について

(1) 経常収支

平成4年中のECに対する経常収支は、374億21百万ドルの黒字で、前年に比べて121億99百万ドル、48.4%黒字幅が拡大している。これは、貿易収支の黒字幅が前年に比べて60億44百万ドル拡大したことに加えて、貿易外収支の赤字幅が61億48百万ドル縮小したためである。

ECに対する経常収支の黒字は、昭和63年（88年）をピークに一時減少したものの、平成3年には再び増加に転じ、4年中もこの黒字幅をさらに上回り、過去最高となった。

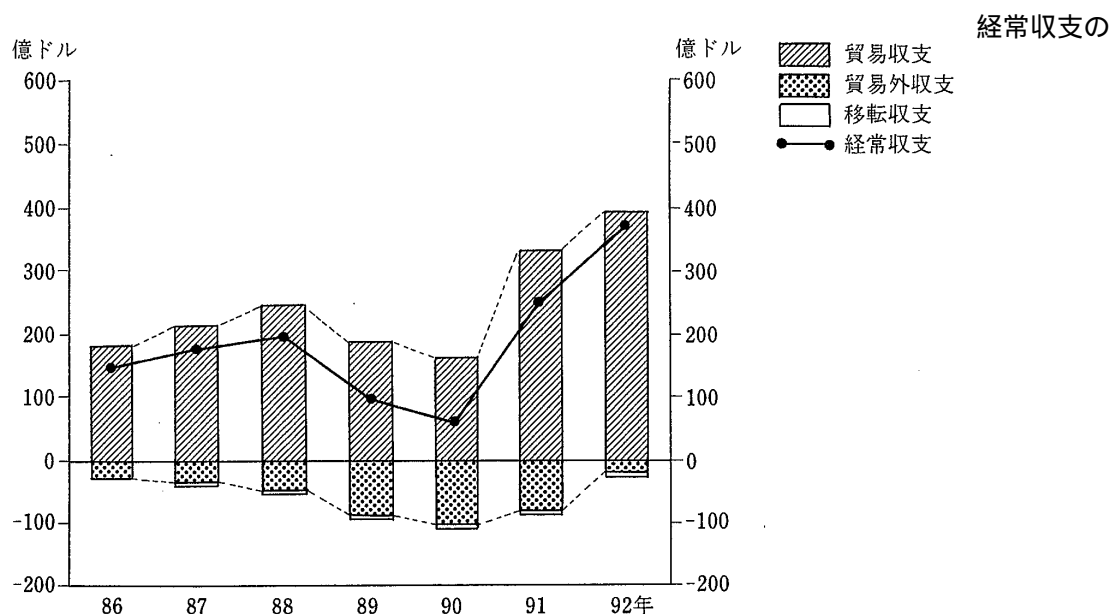
貿易収支

4年中の対EC貿易収支は、394億15百万ドルの黒字で前年に比べて60億44百万ドル、18.1%黒字幅が増加しているが、これは、輸出が前年比5.2%増の610億89百万ドルとなったのに対して、輸入は前年比12.2%減の216億74百万ドルに止まったためである。

対EC輸出入を貿易統計（通関ベース）を使って品目別にみると、輸出では、映像機器（テレビカメラ、VTR等）、音響機器などが減少したものの、自動車、自動データ処理機等、自動車の部分品や原動機（エンジン）などの増加により、前年比5.6%増となった。他方、輸入では、医薬品や事務用機器などが増加したものの、絵画、自動車、繊維製品、航空機などの減少により、同1.6%減となった。

（注）IMFベースの対EC輸入の前年伸び率（12.2%減）が、通関ベース（1.6%減）に比してマイナス幅が大きくなっているのは、通関を伴わない投資用金の要因によるものである。つまり、IMFベースでは、投資用金の取引は、売り買いのネット額が輸入に計上されているが、4年中の投資用金の取引は、前年の買越し（流入超）から売越し（流出超）に転じたため、輸入がマイナス（＝輸入の減少）となった動きを反映したものである。なお、地域別統計における対英国輸入がマイナス（▲13億ドル）となっているのも同様の要因によるものである。

第3図 対ECの
推移



貿易・移転外収支

対EC貿易外収支は、前年（80億ドルの赤字）から19億ドルの赤字へと赤字幅が大きく縮小（+61億ドル）した。これは、運輸収支や旅行収支の赤字幅が拡大したものの、投資収益収支の黒字が大幅に拡大（前年9億ドル→81億ドルで72億ドルの拡大）したこと等によるものである。

投資収益収支の黒字の拡大は、為銀の対外負債残高の縮小による為銀利子の支払減少や、欧州通貨混乱後にドイツ、英国等の債券市場が堅調に推移する中本邦投資家による債券投資が好調であったことにより証券利子の受取が増加したこと等によるものである。

運輸収支や旅行収支の赤字幅の拡大は、イタリア、フランス向けを中心に出国者が増加したこと等によるものである。

移転収支は、前年並みの1億22百万ドルの赤字となった。

（2）長期資本収支

わが国とECとの長期資本収支（ネット）は、前年はECからの対日株式投資が堅調であったことから392億07百万ドルの黒字（流入超）に転化したものの、4年中はこうした動きが一服したこと等から67億03百万ドルの赤字（流出超）へと再び大きく転化した。

本邦資本（資産）では、流出超過幅が前年の495億25百万ドルから262億59百万ドルの流出超へと半減した。これは、対外証券投資が流出超を大きく縮小させたことに加えて、対外直接投資の減少、借款（現地貸付）の回収増加、等によるものである。対外証券投資の流出超の縮小は、マルク債、債券等に対する債券投資が堅調であったものの、他方、80年代後半に多額に発行された居住者発行のユーロドルワラント債等のエクイティ債の償還がかなり出てきていること等によるものである。

一方、EC資本（負債）は、対日直接投資が増加したものの証券投資において、本邦株式や債券の取得が減少したことに加えて、過去に多額に発行された居住者ユーロ債の償還が出てきていること等から、前年に比べて691億76百万ドル流入超を縮小して195億56百万ドルの流入超となった。

4. 対アジアNIESの国際収支

（1）経常収支

平成4年中のアジアNIESに対する経常収支黒字は、416億43百万ドルと前年に比べて79億22百万ドル、23.5%黒字幅が拡大した。これは、貿易収支の黒字幅が対前年比45億01百万ドル拡大したことに加えて、貿易外収支の赤字幅が33億74百万ドル縮小したためである。

アジアNIESに対する経常収支の黒字は、平成元年（89年）以降増加しており、4年中も引続き過去最高の黒字を更新した。

貿易収支

4年中の対アジアNIES貿易収支は、484億16百万ドルの黒字であったが、このうち輸出は、前年比8.4%増の710億25百万ドル、輸入は前年比4.5%増の226億09百万ドルとなった。

対アジアNIES輸出入を貿易統計（通関ベース）を使って品目別にみると、輸出では、半導体等電子部品、自動車、自動車の部分品、建設・鉱山用機械などの増加により、前年比8.7%増となった。他方、輸入では、肉類等の食料品や半導体等電子部品などが増加したものの、鉄鋼、重油等の石油製品、衣類などの減少により、同4.2%減となった。

貿易外・移転収支

対アジアNIES貿易外収支は、旅行収支の赤字が拡大したものの、投資収益収支の赤字が大きく縮小したこと等から、前年に比べて33億74百万ドル赤字幅を縮小して69億58百万ドルの赤字となった。

投資収益収支赤字の縮小は、為銀による香港やシンガポール市場からの資金調達の減少に伴う為銀利子の支払減や、本邦企業が香港やシンガポールから借り入れたユーロ円インパクト・ローンの返済増から借款利子の支払が減少したこと、等によるものである。

移転収支は、前年並みの1億85百万ドルの黒字となった。

(2) 長期資本収支

わが国とアジアNIESとの長期資本収支（ネット）は、本邦資本の借款が流出超へ転化したため、流入超が、前年の447億14百万ドルの流入超から135億18百万ドルの流入超へと大きく縮小した。

本邦資本（資産）は、現地貸付の回収増により借款が流入超へ転化したこと等から、前年の26億68百万ドルの流出超から11億56百万ドルの流入超へと転化した。

一方、アジアNIES資本（負債）は、本邦企業による香港やシンガポールから借り入れた中長期ユーロ円インパクト・ローンの返済増により借款が流入超を大きく縮小させたこと、対日株式投資の縮小等により前年の473億82百万ドルから流入超幅を大きく縮小し、123億62百万ドルの流入超となった。

5. その他

(1) 対中国の国際収支

経常収支

4年中の経常収支は前年に比べて9億36百万ドル、18.9%赤字幅を縮小して、40億23百万ドルの赤字となった。中国に対する経常収支は、平成元年（89年）に貿易収支が赤字に転じてから赤字で推移している。これは、貿易収支の赤字幅が34億35百万ドルと前年対比10億65百万ドル、23.7%縮小したためである。

対中国輸出入を貿易統計（通関ベース）を使って品目別にみると、輸出では、原動機、加熱・冷却用機器（エアコン等）等の一般機械、自動車、二輪自動車等の輸送用機器、通信機、映像機器（テレビ等）の電気機器、繊維および同製品、鉄鋼などの増加により、前年比39.1%増の高い伸びとなった。他方、輸入は、果実・野菜等の食料品、衣類などの増加により、同19.3%増となった。

貿易外収支の赤字は、投資収益収支の黒字幅が拡大したものの、旅行収支の赤字幅も拡大したため、赤字幅の増加は微増（34百万ドル）に止まり、4億39百万ドルの赤字となった。

移転収支は、前年比95百万ドル赤字幅が拡大して1億45百万ドルの赤字となった。

長期資本収支

わが国と中国との長期資本収支（収支尻）は、前年の7億90百万ドルの流出超から61百万ドルの流入超へと転化した。これは、本邦資本（資産）が、対中直接投資の増加と、中国政府銀行などによる円建外債の発行が盛んであったことから、4億10百万ドル流出超を拡大したものの、外国資本（負債）が、中国による対日債券投資の大幅増から、流入超を12億61百万ドル拡大したためである。

(2) 国際機関との経常収支など

4年中のわが国と国際機関との経常収支(18億88百万ドル)のうち、貿易外収支の黒字が30億81百万ドル計上されているが、これは国際機関により発行されたユーロ債や円建外債等に対する本邦による債券投資に伴う利子の受取分が計上されている。また、国際機関との移転収支は、前年の96億65百万ドルの赤字から11億93百万ドルの赤字と赤字幅が大きく縮小しているが、これは前年の湾岸平和基金への支払要因が剥落したこと等によるものである。

このほか、長期資本収支の中には、非分明の項目があるが、これは国際収支統計の基礎となるデータ上、地域別に分類できないもので、例えば、証券投資において、米国、ロンドン、フランス等の主要海外市場以外で取引されたものが計上されている。

(国際金融局調査課)